

石狩叢書第3巻⇒15,000円

執筆料（1エピソードあたり） （原稿用紙6枚×2,000円）	雑費・交通費・写真
12,000円	3,000円



石狩叢書第4巻⇒18,000円

執筆料（1エピソードあたり） （原稿用紙6枚×2,000円）	雑費・交通費・写真	取材・資料整理
12,000円	3,000円	3,000円

新規

石狩叢書第4巻 石狩の油田 構成（素案）

資料-2

導入 石狩で油田が見つかる！（油が浮いているぞ）

内容 具体的なエピソード（例）

1. 黎明期	2. 産業	3. 生活	4. 地形地質	5. 活動
幕末の発見	最大級の油田	暮らしぶり	石油って何	伝えていこう
<ul style="list-style-type: none">江戸時代末期 安政5年荒井金助	<ul style="list-style-type: none">明治36年採掘八の沢鉱業所年間産油量 10,000kl188あった油井軽川製油所まで採算厚田油田茨戸油田	<ul style="list-style-type: none">最盛期の昭和鉱業所の生活従業員250人、長屋旧八の沢小学校油田のまち伊夜日子神社石狩空襲	<ul style="list-style-type: none">油田の地質地形地層 (望来、古潭)天然ガスのあぶく海底にたまったプ ランクトンの死骸秋田、新潟、 勇払、豊富の油田	<ul style="list-style-type: none">八の沢石油友の会鳥瞰見取図看板有志による草刈記念碑建立約60年の歴史年表
※岩本龍夫 ※故田中實	※岩本龍夫 ※山田大隆 ※故田中實 ※故中村秋雄	※岩本龍夫 ※生振中田守 ※生振故中村秋雄 ※聚富上出則雄	※海洋研究開発機構 大河内直彦 ※北海道大学 鈴木徳行	※岩本龍夫 ※故田中實

まとめ 油田跡には今でも面影が残る。石狩市に油田があった事を伝承していく。